

木
きた

の

し
し

然
ぜん

第
31
号

1987年5月25日



知床国立公園内伐採跡地、5月2日

写真：久保田 康 裕

知床国立公園内国有林伐採強行!

バリッパリバリッという断末魔の叫びとともに三百年の悠久の時を生きた知床の木々は地に伏していった。芽吹き季節に入らうという時だった。

四月十四日午前十時。チェーンソーがまわる。折りしも十五名の有志が木に抱きつくチブコ運動の反対斜面である。この日は未明から警察の目をかいくぐり、全国から寄せられたハンカチメッセージを伐採予定木に巻き付けるため入山していた。全てのハンカチを巻き終えたのが九時。休む間もなく移動しチブコ運動に入る。寒さと疲労が身にしみる中、怒りだけが身体をささえているようなものだ。この日は抱きついた木とハンカチの巻かれた木がたった一日だけ命をつないだ。もっとチブコ運動に参加する人がいたら。百人もいたらこの伐採は止められたのではないか。と思えてならない。数の限界がくやしい。

伐採日が発表されたのは前日の十三日である。報道をはじめ道内外は「選挙」で飛んでいた。そこが林野庁の狙いだったのか。伐採近しとの情報が入ったのは十日。取る物も取らず知床に向かったのが十一日。札幌の事務局は全国の有志に電話をかけ続けるが大半は間に合わない。十二日からウトロの伐採現地入口にあたる国民宿舎前にご主人のご好意でキャンプを設営。この日から警察の24時間監視にあう。ウトロには私服を含め70名の警察が動員され待機していた。林野関係者も北見

管内各地からウトロ入りしている。キャンプ

には全国から会社を休み、学校を休み、子連れの主婦も含め30名を越える人たちがかけつけた。あまりに急な事態に十分な装備を持たずに来る人が多い。伐採ありとの報で、そのまま飛行機に飛び乗った東京の青年。夜行で、あるいは東京から休まず車でかけた人たちばかり、みな一様に疲れていた。24時間監視付きの中で真夜中も含め二回林内の下見に入る。「なんとしてもハンカチを巻き付け、想いを知床にとどけなければ全国の皆さんに申し訳ない。」この一念からのことであった。そこで考えたのが未明の行動で道のない所を直登することだった。これなら警察も付いては来れまいと考えたのだが、はたして目的地にビタリと着くものやら。不安はあるものに行きしかなかった。前日までは仲間にも計画を話さなかった。十三日夜、もしものことを考えて二隊に分かれることを告げる。国有林入口で地元の方々と一緒に抗議行動に入るグループ。そしてもう一隊の未明からの行動。

「木を切らないで」というただそれだけのことになぜ警察が必要だったのか。発表の翌日の伐採も急なら、選挙中ということも異常である。全国でくやしい思いをされた方も多いことと思う。悲しみや怒りやくやしさをどう表わせばいいのか。林野庁は自らの首を締める結果を選択したとも言えよう。同時に黙って指をくわえていた環境庁、文化庁の責任

も見逃せない。来年度の伐採こそは止めなければならぬ。国道三三三三号線から東側。かつて一度も人の手が加えられていない原生林もそこには含まれている。知床の自然林は木材生産の為の「経済林」ではない。生態系保持のための「環境保護林」である。

伐採跡地調査の徹底

知床の自然林伐採を二度と繰り返させないために、さらに今回の伐採の事実を把握するために跡地調査をする必要がある。

四月十六日、ヘリコプター集材が開始される前に、伐採木の数・大きさ・支障木の有無と量・周辺の変化を調べた。この日も未明から入山し四班に分かれ横一列・十五分間隔で調査している。調査し終わった時、ヘリコプターが木を上げ上げていった。

五月二日からは北大と帯畜大の学生を中心に、さらに細かな調査が続いている。一本たりとも見落すまいと熱が入っただけに次々と事実が明らかにされている。

一本の伐採(ミズナラ)の支障木が多いところで二十三本。平均すると二・九本になる。伐採予定になかったトドマツも数十本搬出されていた。伐採木周辺の破壊面積(穴がある所)は六四二平方メートルも及んでいる。林野庁が公表した五三三本の伐採は、六百本を越え支障木を含めるとかなりの数値になる。「ささやかな採伐」どころではなかった。

伐採跡地内には、四・五年生のミズナラ(大きさ10センチ)のポット苗が約八百個置かれている。伐採跡地に植えるのだろうか、クマ

イザサの勢いに勝るとは思えない。さらに調査を続け、七月末には「報告書」として公表したい。伐採木の分布については図Ⅱを参照したい。ホロベツ川添いに集中しているのがわかる。沢添いは野生動物にとって最も重要な場所であるが――。

伐られた木はどこへ

知床材は留辺蘂町に運ばれ、十五日展示され、十六日北見市で入札された。道内四十五社の他全国から百三十八人が参加している。

ナラ、センは伐期が遅く水を吸っているためいま一つの落札模様だったが、全国的に希少価値が高いイチイは立方当たり20〜25万と高値落札している。このイチイは床柱として珍重され結局は金持ちの住宅の飾りとされる。伐採総量・樹種別・等級別等は承知する

ところに至っていないので詳しくは報告できないが新聞報道などから考えて、北見支局が主張してきた「森林活性化」のために経済目的ではない」と宣伝してきた内容とは大きな違いであった。支局側のいう採伐であれば

金銭的な価値木は少ないはずである。いかに「金になる木」を切ったかが競争によった二百立方メートル(全体の一部)がそれを証したものである。ナラ、センももう一声の価格とはいえず、予定価格を上まわったから落札したのである。残された三百本はどんな素材か、また地元業者に一部落札したものがどんな内容のものなのか、地元産業振興うんぬんに係わる

ことが知りたい。知床問題はなおも続く。(田中 朋子)

お知らせ

- 北大自然保護研究会・シンポジウム「知床の森を考える」
とき・六月六日(土)、13時から
ところ・北大教養部・第四演習室
- 知床問題も強行伐採のあと沈黙気味ですが、今回のシンポジウムでは伐採の報告の他、参加者の方々と「なぜ知床なのか」を考えてみたいと思います。東三郎教授も出席の予定です。
- 知床伐採跡地調査
とき・七月四日(土)〜十一日(土)
ところ・斜里町ウトロ国設キャンプ場
- 四日・集合・ミーティング
- 五日・知床横断道路定期事後調査
- 六日・伐採跡地調査
- 八日・来年度伐採予定地調査
- 十一日・報告まとめ・解散
- 参加ご希望の方は六月二十五日までに事務局にお申し込みください。
- 森のセミナー
とき・七月十七日(金)〜十九日(日)
ところ・
参加費・二万円(宿泊・食事・交通・資料)
- テーマ・自然林の保護、自然公園の保護と利用、国有林野事業の特別会計制度。
- 問題提起者・工藤父母道(勸日本自然保護協会) 芳賀昶(全林野協議会議長) 他
- 参加ご希望の方は七月十日まで事務局へ。

知床募金にご協力を!

第二ラウンドに入る知床国立公園内伐採計画。来年度伐採をひかえ一層の活動が必要です。四月から伐採跡地調査を実施しています。七月末には報告書を出し、シンポジウム・セミナーを企画しました。そのための事務・活動資金が不足しています。募金にご協力ください。募金方法は
郵便振替 小樽 6-18005・知床募金

立木買い取り運動

ナショナルトラストの変形版として、伐採予定木を立木のまま買い取ろうという運動です。伐採の純利益分を林野庁にさしあげることで知床の自然林を守りたいと4月からスタート。現在200万円を超えました題
国民の共有財産を国民が買うことは筋違いですが「切らないで」という声を具体化する方法がこの運動です。買い取れない場合もありますので申し込み書には「返金」か「募金」かを明記してください。

参加方法は
1口・1万円を現金書留で事務局まで

一九八七年四月十四日

知床国立公園内国有

林強行伐採に対する

抗議声明

北海道自然保護連合 代表 瀧川 潔

知床国立公園内国有林の強行伐採に強い怒りをもって抗議することにも、なぜ国民の前に正々堂々と伐採の正当性を断って実施しないのか、今回の姑息な手段は許されるものではありません。

知床国有林の伐採問題は自然保護を求める全国的な強い世論の噴出でありました。こうした世論の背景から、林野庁は伐採予定地(六十二年度分)内に限り動物等の生息調査を実施し、一時的に伐採を凍結しました。その調査結果を慎重に検討しようとして、伐採の可否を判断したいといっていました。

しかし、この調査も期間が冬期間(三月)寒日数十二日間(調査範囲一、七〇〇ha)の伐採予定地面積中二四〇ha・一四〇haと狭いものであり、さらに調査主体・評価が北見営林支局であることから、客観性のない調査と言わざるを得ません。このことは当然はじめ他の自然保護団体と広範の国民が要求してきた、抜本的な知床半島の生態系総合調査とは全く異なる次元の調査といえます。「調査は国民の納得するものでなければならぬ」とした農水産大臣の約束に対し、大臣自らどのように考えて調査報告書を書き、伐採に踏み切ったのか。

クマゲラは確認されたがシマフクロウは確認には至らなかったとして、伐採推進の提言を受け取れる報告書が出されましたが、あまりにも乏しい調査資料の中から何を基準として伐採推進論としたのでしょうか。また、今後三十九年に亘り伐採予定地で、局所的な調査を行なうとしてい

とも全く理解に苦しむものがあります。なぜなら、林内の生息野生動物調査をするのに平行して森林施業を行なうというのですから、これは矛盾した行為はありません。生息動物に重大な悪影響を与えながらの調査など論外です。野生動物を追い出してから調査するのも同じです。そのようなことは生態調査と言えません。知床といわず生態調査は現状を憂えることなく慎重な調査が要求されるものです。以上、北見営林支局調査結果から、伐採推進論を導き出すことは無理が多く、国民の理解を得られるものではありません。知床生態系調査は最も良い環境のなかで第三機関の手によって、少なくとも三年以上をかけた総合的調査を実施しなければなりません。

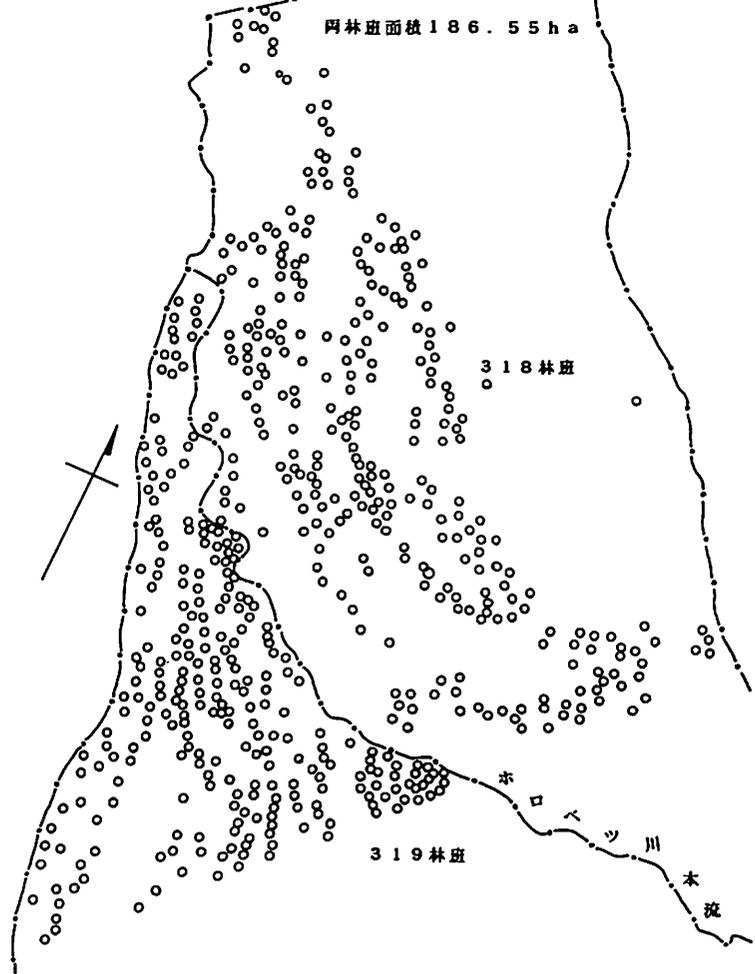
よって今回の調査内容・結果・評価は、知床半島全域に対する破壊につながる伐採推進の判断資料とされたこと、合せて農水産大臣の「国民が納得する調査」をするとしてたことにも言及される重大なものであります。

また、国有林野事業収益からすれば僅少なものであり、重要な問題をほらむ知床の今次伐採計画は、農林水産大臣発言のよりに国民の納得する最終処理をすべきです。メソソソにかけて伐るものは伐る「言われてもいますが、国民の共有財産の管理運営の委託責任の完璧を期する意味からも、慎重であるべきが当然の処置であります。

知床国立公園内国有林全域は、国の内外からも最良の処置と評価されるもので取捨されるべきが望まれる地域であります。しかし、このことは全国的に裏切られたものであります。なおかつ、統一選挙に伴う報道機関の手薄・紙面確保の困難等があるという今の時期に、強行伐採に踏み切ったのは何か。これは伐採に必然性を欠いていることを露呈したも同然です。このことは国民不在の行政であり、政府の行政執行に大きな不安を残すものです。

私たちは、次年度以降の森林施業計画にも広く見識を求め、反対する心づもりを宣言するものとします。

伐採木分布図



知床グッズ

知床問題を多くの人に知ってもらうための「知床グッズ」です。益金は知床募金に入れ保護活動に使われます。

- 絵ハガキ : 1枚 70円
- 伐採予定木の写真と解説付
- テレホンカード : 1枚 800円
- シマフクロウのデザイン
- 知床エイドテーマ曲カセット : 500円
- ご希望の方は事務局まで。送料別。

本多勝一編「知床を考える」出版

「人間は自然のほんの一部にすぎない、という簡単な原理こそ思い出されねばならぬ。知床原生林の伐採強行が何をもたらすか。あらゆる角度から愚行の検証をする！」とあるように、知床問題の経過・論点・資料、本多氏をはじめ多くの人々の意見がおさめられています。資料として、頭を整理する上で、さらに本質をさぐる上で必読書です。

晩聲社、4/6判、342頁、2,000円
事務局で取り扱っています。送料270円

国有林の管理

林班 地形・樹種・繁茂状態等によって管理施業の容易性を考慮して決定する・従って一ヶ林班の面積は大小様々である。
材積 林班内生木・六彦(樹種を問わず、地上から一米三〇彦の直径、胸高直径と言っている)以上の樹木を計測し算定されたものである。

皆伐 一定面積を設定して、その区域内の樹木は全部伐採することである。

択伐 一般に天然材は大小入り混じって複層状態をなしている。この複層状態を永続させる方法として、林内の老齢大木を伐り、中小の木の生長を促進させながら、同時に稚樹の生長を促すことである。このような伐り方を繰り返して、原形と同じように保つために、一本づつを選んで伐ることが択伐作業である。

間伐(間引き) 間伐は人工林に多い作業である。樹木が混みあって枝と枝が接触して順調に生長するために種々の邪魔が生じてくるので適当なすき間を空けるために伐採することが間伐である。以上のほかいろいろな天然更新の方法例えば漸伐によるものなどがあるが紙面の都合で次回で掲載することにした。国有林野組織と施業の仕組みを簡単に記載すると、林野庁―各営林局(営林支局)各営林署―各担当区事務所となっている。

施業の方法は、営林署の管轄内に、事業区(幾つかの林班の集団区域)―林班―小班と林地が区分されて毎年計画的に伐採・造林等々とこれに付帯するいろいろな事業がなされている。

北の仲間たち

数ある北海道の野生動物の中で、代表的なもの、やはりヒグマではないだろうか。二〇〇〇〜三〇〇〇年にも達する陸上の食肉目に属する、いわゆる「猛獣」は、日本ではヒグマしか存在しない。確かに恐しい動物ではあるが、それだけに魅力的でもある。ヒグマの生息地は、ほぼ全道にわたり、その数は推定二〇〇〇頭前後、あるいは約三〇〇〇頭と、いくつもの説がある。母グマは四カ月ほどの「冬ごもり」の間に穴の中で子を生み、三月から五月頃、親子そろって穴から出て、生きてきたばかりの若芽などを食べる。

ヒグマが雑食性であることを知っている人は少なくないだろうが、射殺されたヒグマの胃の内容物は、大部分がフキやウドなどの山採、ミズナラなどの木の実といった植物質のもので占められている。残りのわずかな動物質も小動物やアリ、ハチ等の昆虫が主で、大型哺乳類を襲って捕食することはほとんどないようだ。土産ものの彫刻にあるようにヒグマが川を溯上してきたサケをとって食べることも近年ほとんどの川では不可能になってしまった。サケ、マスは孵化事業のため、川を登る前に捕獲場でひっかけり、クマ達の口には入らなくなってしまったのだ。

一方ではまた、観光開発などによる森林の伐採や人間の進出により、その生息地を狭められている。ちよつとでも人里に近づ



▲コメント ヒグマのこんな姿も今では知床半島などのごく一部の川で見られるだけ

(文・カット、笹野 聡美)

こうものなら、たちまち地元のハンター達による山狩りが行われる。ヒグマによる死者数は明治三十七年から昭和八年までに一〇四人(年平均三・五人)。開拓当初はクマの網張りの中に人間が入りこんでいったのだから事故も多かったようだが、近年では人間のヒグマに対する知識や心構えができてきているせいもあり、ずつと減っている。にもかかわらず、現在、年間三〇〇〜四〇〇頭前後のヒグマが射殺というかたちで捕獲されており、その大半は有害獣駆除の許可を得ている。他の野生動物同様、いや危険性のある動物であるためいっそう、ヒグマは自身の狭い思いをして暮らしているようである。

新刊紹介

『知床を考える』 本多 勝一 編

晩聲社 3月25日発売

今や知床の森林伐採は、北海道の一地域の問題ではなく、全国民が真剣に考えなければならぬ。著名ジャーナリスト本多勝一氏が、今だからこそこの書を放つ。畑正憲、C・W・ニコルをはじめとする多くの著名人の意見を集成した必読の書。(二、〇〇〇円)

『鳥神話』 岩本 久則

東京創元社

親しみやすい岩本氏の絵は、その名を知らずとも何かの雑誌などで目にかかっているはず。絵だけでなく、文章もユーモアにあふれていて実に楽しい。こういう本から自然への興味を持つきっかけが生まれるのでは？ 肩のこらない自然とのおつきあいができる本。

『バードウォッチング』 常山 秀夫

保育社カラーブックス

文庫サイズでおなじみのあのカラーブックスに、バードウォッチングの手引きが登場。同シリーズには、いくつものポケット図鑑などがありなかなか好評だ。手軽でやさしい入門書として、幅広く勧めたい。(五〇〇円)

声

連合事務所へ送られてくる皆さんの声を紹介します。むしろ道外の方々の熱いご意見に、北海道民はどうしたのだろうと考えたりするほどです。いただいたお手紙には、すべて目を通してあります。お気付きの点、疑問、ご意見がありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。

* 今、林野行政は厳しい冬の時代のようにですが、だからといって木を伐ることや原生林にたかるとは、やはり減る方向への道のように感じます。そしてこの場合は、たかると人間が減るか、たかると森林が減るのか……。

(京都市・女性)

私にとって知床は遠い地ですが、日高の中央横断道路や、秋田、青森の白神山を始め、全国各地でかけがえのない自然が今日も明日も危機にさらされています。そしてこれまでもあまりにも多くの宝を失ってきました。もうこれ以上破壊をさせずに、次の世代に引き継いでいきたいと強く願っています。

(大阪府・男性)

現在日本のあるところで、環境破壊、

自然保護についての問題が論じられています。国有林の営業とか、国の事情についてはほとんど知らない私が、単に自然保護を口にするのは間違っているかもしれないが、北海道の、私が見ても、今目指し、憧れている北海道の自然が、去年見た南アルプスのように、傷だらけの姿になってしまっているのは絶対嫌です。北海道のあの地(知床)が、この世に現れて以来ずっとあったもの、古きよき美しきものを破壊するに人間は、あまりにも無頓着すぎると思います。

私の夢のひとつは、北海道のいなかの牧場で働きたい、そして動物や花や木々たちと友だちになりたいことなのです。絶対反対です。大人になって、北海道に行くとも木があまりなかったと言いたくありません。いくら国のためでも、これ以上国を荒らさないでほしいです。(兵庫県・女子中学生)

地球の大切な宝、そして私たちにあって夢やロマンである自然を、我々人類が人間の手により、そしてほんのわずかな時間で失っていくのは、とても悲しいことでもあります。

(東京都・高校生)

ネットワーク

ノーマア・チエルノブイリ

四月二十六日。一年前のこの日あつてはならない原発事故がソ連で起きた。世界中の政府・一部科学者が「安全」と言いはなっていた言葉が死語となる。ヨーロッパを中心に「放射能の恐怖」は現実となり今も続く。死の灰は日本の食卓にもすでに上陸し、気づかぬうちに体内に侵入している。北海道の岩内原発は来年九月にも「原子の灯」がともろうとしている。幌延への核廃棄物貯蔵施設誘致も依然根強い。

「岩内に原子の灯をともしない」を合言葉に女・子どもを中心に札幌市内をパレード(デモ)する。参加五百人。悪天候の中思い思いに化装し、プラカード・風せんを持ち、リヤカー・乳母車を追し、先導車十台の後を長だの列をなす。「ノーマア・チエルノブイリ」。

ノーマア・チエルノブイリ

五月一日、札幌市民会館をほぼ全館使い「幌延一万人フェスティバル」が開始された。「核の恐怖」を自覚し、岩内原発・幌延核廃施設誘致に反対する女たちの行動であった。安全で健康な生活を子どもたちに伝えるために黙

っているはいけない、「ノーマア」と言おう、と六カ月準備し映画会・講演会を積み重ねてきた。当日はヨネヤママコのパントマイム、アイリーン・ミス講演会、近藤和子・吉田真由美を囲んで懇談会、映画会、あきらめない女たちのトークイン、幌延一過疎と酪農パネルディスカッション、樋口健二写真展・パネル展示など一日中盛りだくさん。

千人を超える参加者が「日常生活の中の核」を意識して帰ったことだろう。女たちの行動はさらに続けられる。

水俣30年全道巡回展

「水俣」は終っていない。暮らしの中から「水俣30年」を見つめようと札幌・旭川・帯広・釧路で五月から七月まで続けられる。

五月七日・砂田明一人芝居。八日・

映画「水俣患者さんとその世界」。九日原田正純氏講演会。砂田氏の一人芝居は、患者さんや猫ががき苦しんで死んでいく時の表情をデザインした「お面」を付け一時間半演じきる。死ぬ一殺される一者も生き残された者も共に苦しい。その痛みが伝わる。彼はこの後十二日、知床の伐採跡を見、切られた木々の木片を「乙女塚」におさめることになった。「殺される」側の知床と水俣が繋がった。来年は知床で彼の舞台を見たい。

躍動

知床の自然を守る市民運動

知床国立公園の自然を守る釧路市民の集い実行委員会

はじめに

知床国立公園の国有林伐採問題は、昨年九月現地にキャンプが設置されて、社会的に大きな波紋を起こした。釧路でも知床の自然に危機感を覚えた山の仲間達や自然を愛する人達が、知床の自然の大切さを市民に訴えようと動きだしたのは昨年の十一月であった。勿論それに先立って、各団体では自主的に学習を進めたり、現地調査に加わったりしていたので、初めて顔を合わせた人々ではあったが、その趣旨に合意し早速その場で発起人会を発足させた。一方、現場での択伐計画は、営林支局の委託調査により本年二月まで凍結ということなので、運動は急がねばならず、とりあえず学習をしようということで「知床を考える釧路集い」を開くことを確認した。

小さな学習会

『知床を考える釧路集い』は、昨年十二月七日(日) サンライフ釧路にお

と岩谷吏氏(中学校教諭)による「知床旅情」の独唱と全員による大合唱があり、真にバラエティに富んだ「集い」となった。

また、この「集い」とは並行して若手の実行委員達は、休日返上して斜里町に出かけ、この集いを盛り上げるため、知床博物館から知床の動植物のパネルを借り受け、喫茶店しかもんにおいて二月十七日(火)から二月二十二日(日)まで写真展をおこなった。写真展は、日本でも珍しいといわれている天然湖のマスをとらえたヒグマの写真をはじめ数多くの写真が展示され、また、ムツゴロウの詩「いつまで



いて行われた。関係者は、一般市民約五十名が参集し、現地の知床自然保護協会会長である午来 昌氏の話しに熱心に耳を傾けた。この学習会を通して「湿原の国立公園化を控えた、道東で最大の都市釧路では、知床の自然保護を釧路の問題として受け止めるべき」との熱い発言があり、その場で大規模な市民集会を実現させるための実行委員会が結成された。

具体的な会合は、年の瀬もおし迫った昨年の十二月二十六日(金) 総合福祉センターで、二十数名の実行委員によって慎重に審議され、二月に「知床国立公園の自然を守る釧路市民の集い」を開催することを決定した。

これについて小さな学習会が、北海道教育大学釧路分校を会場にして二回開かれた。この学習会では、知床の択伐樹木の種類と経済的価値や動植物について、その生態系の有機的つながり等について有効な情報を収集することができた。

「も知床」も紹介されて大いに反響を呼んだ。

世論はちから

知床の自然をこのままにしておきたいという唯それだけの素朴な想いで集まった実行委員のほとんどは、このような大きな取り組みにはズブの素人なので、かなりの時間とエネルギーを費やして真剣に討議を重ねた。そして、百枚余りのポスター、三千枚のチラシ、千五百枚のチケットを準備して、進めてきたが、開催間近になると、市民の手応えに一喜一憂を繰り返す有様であった。そして当日、約五百人の参加者をえて釧路市公民館の大ホールは八割か埋まり盛況に終わった。チケットの売上げも予想を上回り、来賓も迎えず、後援団体以外の大きな組織の力にも頼らずに開催された集会ではあったが、高齢者、親子連れ、高校生と本当に庶民の中から盛り上がった「草の根的市民集会」となった。

五つの後援団体を代表して、小川氏(釧路自然保護協会幹事長)による「道東に住む私達にとって知床は、私達の庭のようなもので、知床の樹は絶対に切らすべきではない」との力強い挨拶があった。続いて講演に移り寺島氏、午来氏より「林野庁の独立採算制度の問題」「何故、知床の木を切つてはいけないのか」「知床とはどのような

知は行動となる

実行委員会は五回、事務局打ち合わせは十数回に及び、そのメンバーは十七歳の女子高校生から八十歳を越えた実行委員会代表丹葉節郎氏に至るまで、幅広い年齢層で構成された。国連の専門機関ユネスコの民間ユネスコ運動釧路ユネスコ協会会長の丹葉氏をこの代表としてお迎えしたのは、平和と緑をこよなく愛する氏の思想信条を掲げたいと願った。

一方、会を成功させようと呼びかける人達は、当初、百人くらいと話し合っていたが、最終的には二百十六人となった。その顔ぶれを見ると医師、弁護士、写真家、画家、彫刻家、ピアノ・ダンス、住職、茶・華道教授、日舞・洋舞(ダンス)教師、喫茶店経営者、主婦、小学校から大学までの教師などで実行委員一人ひとりのはたらきかけにマスコミの報道も加わって、大いに市民の関心を喚起したと思われる。

尚、後援団体には釧路自然保護協会、日本野鳥の会釧路支部、北海道東部地

などこのなか、動物は、植物は」等話として頂いた。特に、午来氏の話は参加者の感銘を呼んだ。「集い」終了後参加者の感想をいくつか挙げると次のようなものであった。(元市議会議員)

「歌や踊りやミニコンサート等のイベントもよいが、肝心な貴重報告や現地報告の時間が短かった。」(公務員)

「一般からの質問もあり心くばりがされていて、良い集会だと思う。」(中学校教諭)

「自然保護の問題は非常に深いことだと痛感した。これからはもっと関心をもち理解するよう努力したい。」(住職)

「この集会に、自然の中に生きていく長グツバンドを招いたの共鳴を与えて大変よかった。」(高校教諭)

「自分達は子供達に何をしてやれるかという日常忘れがちなことを強く気付かせてくれて心が洗われた想いをした。また、林野行政が自然を考える立場にありながら独立採算制を余儀なくされ、累積赤字が大きいことを知って、政治のおかしさを感じた。」(主婦)

おわりに

集会のしめくりとしてアピール文が満場の拍手で採択された。アピール文は農林水産省をはじめ林野庁、環境庁、北見営林支局、斜里町などにむけ

区勤労者山岳連盟、北海道スポーツインテグレーション協会釧路支部、釧路キャンプ協会の協力を得た。

このようにして

「知床国立公園の自然を少る釧路市民の集い」は、去る二月二十一日(土)午後六時より釧路市公民館で開催された。

この集いのメインとして「知床国立公園の自然を守るために」と題して寺島一男氏(北海道自然保護団体連合代表代行)に、「知床半島の自然について」と題して午来昌氏(知床自然保護協会会長)にそれぞれ講演していただいた。

一方、イベントとしてムツゴロウの長グツバンドによるミニコンサートの他、当初予定していなかった創作舞踊「知床に祈る」が呼びかけ人の一人泉玲子氏(泉流師範)によって発表されたり、「カムイノミ」が豊岡征則氏(アイヌ精神による知床立木伐採阻止運動の会)によって披露されたり、成田芳子氏(クッキングスクール主宰)

て発送された。名実共に草の根運動的「釧路市民の集い」は、こうして第一段階を終了した。しかし、これは今回企画に参加した人々の力を他に各報道諸機関の支援なくして市民的盛り上がりを実現することはできなかったはずである。テレビ、ラジオや新聞紙上やこのことについて報道された回数、一カ月間で延べ二十数回に及んだ。

三月十六日(月)福祉会館において拡大実行委員会が開催され今回の集会の総括を行った。現地調査の結果や関係機関の動向をふまえて、今後どのようにこの運動を進めていくか検討された。その中で会として、

一、しれとこ一〇〇平方メートル運動に参加(三区画申し込み)

二、三月二十九日(日)集い参加者による反省会と学習会の企画

三、知床現地ツアー(六月予定)

の三点が確認された。なお、実行委員会は三月二十九日をもって解散するが、今後の伐採計画の推移を見守るため事務局は残すこととした。

いずれにしても今回の集会は、地域住民の根底にある美しい花を愛でる心、青い空、緑濃い樹々の山々、澄んだ川の流れを潜在的に求める人間の本性を揺り動かした意味で貴重な運動であり、ここにかかげた火を消さずにくことを念願とした。

(実行委員 松田 佐吉)

代表者会議報告

年度初めの代表者会議は総会的な会議です。四月五日、十時から十五時まで北海道クリスチャンセンターで二十三日中九団体出席、委任団体十四で開かれました。

一九八六年度活動報告では、知床国立公園内伐採計画の他美瑛富士スキー場計画（アセスメント実施まで計画は具体化せず）・手稲山西野スキー場計画（中止）・室蘭岳スキー場計画（手続進行中）・然別湖周辺の国有林伐採計画（着手中）などが具体的に報告されました。

一九八六年度決算及び一九八七年度計画は表のとおり。新企画として「森を見るツアー」は今後年数回定期的に実施することとし、今年は大雪山・知床コース三泊四日。収入の主力を会費でまかなうため賛助会員の拡大が急務です。支出については最低限にとどめざるを得ないのですが知床問題がある以上活動支出は予算を越えるものと思えます。

役員改選については次のとおりです。

代表 表 瀬川 潔
副代表 表 寺島 一 男
事務局 長 田 中 明 子

事務局長 井山 浩一
監査 水野 正
針山 義久
常務委員 在札団体から一名
以上の役員が満場一致で決定しました。任期は二年。

一九八七年度活動方針については、知床問題を全力で取り組むこと他にリゾート法案・ヒューマングリーンプランについてプロジェクトをつくる。

・入山料問題について情報収集し検討する。
・スキー場問題について専門の連絡会をつくり情報収集・検討を行なう。
特に知床問題は情況に即応し、事務局と常務委員によって対応する。基本的方向に揺れる問題が起きた場合は代表者会議にはかることとなりました。



特別会計

センター基金

収入の部		支出の部	
積立金	84,000	引越代	10,000
		電話新設	72,800
合計	84,000	合計	82,800
		差引残額	1,200

日高基金（繰越）

収入の部	
繰越金	281,397
第3回目高セミナー	68,750
利息	218
合計	350,365

1987年度予算 1987年4月1日～1988年3月31日

収入の部				支出の部				
科目	予算	備考	科目	予算	備考			
会費収入	団体加盟費	150,000	30口分	事務所費	240,000	20000×12		
	賛助会員	1,500,000	500口分	光熱費	50,000	電気・水道・灯油		
	(小計)	(1,650,000)		事務員消費費	150,000	コピーレンタル料金		
事業収入	石けん	150,000		通信費	300,000			
	書籍	100,000		交通・旅費	300,000			
	(小計)	(250,000)		会議費	30,000	代表者会議3回		
活動収入	森を見るツアー	2,500,000	募集人員50員	図書・資料代	30,000			
	集会その他	100,000	シンポジウム	人件費	720,000	60000×12ヶ月		
	(小計)	(2,600,000)		(小計)	(1,820,000)			
寄付金	100,000		粉石けん	70,000				
前年度繰越金	▲ 45,455		(小計)	(70,000)				
合計	4,554,545		森を見るツアー	1,700,000	バス代・宿泊代他			
			集会地	100,000				
			印刷費	360,000	会報			
			調査費	50,000	日高・知床			
			その他	454,545	負担金他			
			(小計)	(2,664,545)				
			合計	4,554,545				

1986年度決算報告 1986年3月1日～1987年3月31日

収入の部					支出の部					
科目	予算	決算	増減	備考	科目	予算	決算	増減	備考	
会費収入	加盟費	100,000	195,000	95,000	5,000円×39口 15団体	事務所費	276,000	290,000	14,000	23,000円×10ヶ月 15,000円×4ヶ月
	賛助会員	450,000	852,000	402,000	3,000円×284口 195人	光熱費	100,000	49,275	▲ 50,725	電気・水道・灯油 コピーレンタル料金
	(小計)	(550,000)	(1,047,000)	(497,000)		事務員消費費	70,000	153,827	83,827	
事業収入	粉石けん	200,000	119,000	▲ 81,000		通信費	150,000	356,796	206,796	
	ループタイ		16,000	16,000		交通・旅費	50,000	462,140	412,140	
	タイピン		1,000	1,000		会議費	10,000	38,340	28,340	代表者会議
	日高報告書		18,500	18,500		図書・資料費	30,000	49,910	19,910	
	日高セミナー		24,300	24,300		事務局長手当	12,000	12,000	0	
	知床報告書		25,900	25,900		(小計)	(698,000)	(1,412,000)	(714,288)	
	北の自然他		22,200	22,200		粉石けん	50,000	77,238	27,238	ハイム石けん含
	日高ポスター		3,100	3,100		1987年カレンダー	0	724,000	724,000	
	坂本直行絵ハガキ		2,100	2,100		(小計)	(50,000)	(801,238)	(751,238)	
	ハイム石けん		35,860	35,860		印刷費	200,000	302,540	102,540	会報・入会書・住所変更ハガキ・封筒他
1987年日高カレンダー		784,240	784,240		日高セミナーNo3	340,000	250,750	▲ 89,250	日高・知床	
その他	20,000	20,000			調査費	100,000	27,734	▲ 72,266		
(小計)	(220,000)	(1,052,200)	(832,200)		知床シンポジウム	0	87,556	87,556		
活動収入	日高セミナーNo3	400,000	319,500	▲ 80,500		集会他	0	15,670	15,670	
知床の森を考えるシンポジウム	50,000	59,000	9,000		その他	113,625	29,554	▲ 84,071	負担金他	
(小計)	(450,000)	(378,500)	(▲ 71,500)		(小計)	(753,625)	(713,804)	(▲ 40,821)		
寄付	寄付金	0	111,350	111,350	27人	積立金	84,000	84,000	0	
(小計)	(0)	(111,350)	(111,350)		合計	1,585,625	3,011,330	1,417,651		
利息	0	11,200	11,200		合計	1,585,625	3,011,330	1,417,651		
前年度繰越金	365,625	365,625			(収入合計)2,965,875-(支出合計)3,011,330=(差引残額)▲45,455					
合計	1,585,625	2,965,875	1,380,250							

活動の記録 (12月21日～5月16日)

- 12月21日 ○水俣30年全道巡回展実行委員会
- 12月22日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 12月25日 ○知床・記者会見
- 12月26日 ○北の自然No.30発行
- 12月29日 ○然別湖伐採問題で川辺氏来札、打合せ
- 1987年
 - 1月8日 ○幌延フェスティバル事務局会議
 - 1月10日 ○十勝自然保護協会と打合せ(帯広にて)
 - 1月11日 ○知床自然保護協会と打合せ(斜里町にて)
 - 1月14日 ○寺島代表代行と打合せ(旭川にて)
 - 1月18日 ○緊急代表者会議(札幌にて)
 - 「北見営林支局調査に対するアピール」発送。関係機関に送付。
- 1月19日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 1月20日 ○知床問題で記者会見
- 「知床国立公園内国有林伐採計画に係る調査についての公開質問状」を調査員に送付。
- 1月23日 ○平取町にて菅野茂氏と面談
- 1月24日 ○寺島代表代行と打合せ(札幌にて)
- 1月26日 ○東京にて知床問題で国会議員・各関係省庁
 - ・報道関係者・有志と面談(田中)
- 2月2日 ○環境庁記者クラブで会見
- 2月3日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 2月9日 ○北海道知事立候補予定者に公開質問状送付
- 道政記者クラブで会見
- 2月12日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 2月14日 ○知床問題で記者会見
- 2月21～22日 ○「森吉山スキー場計画を考えるシンポジウム」にて報告・パネラー(秋田にて、田中)
- 2月21日 ○「知床を考える釧路市民のつどい」にて講演(釧路にて、寺島)
- 2月25日 ○司法書士会の大会で講演(田中)
- 2月27～28日 ○第1回知床現地ツアー
- 3月5日 ○通信86-6・86-7 送付
- 3月7日 ○東京にて知床集会出席(田中)
- 12日 ○関係機関・報道・有志と面談
- 3月10日 ○環境庁に知床署名・7万名分を手渡す
- 3月11日 ○林野庁に知床署名・7万580名分を手渡す
- 3月13日～14日 ○第2回知床現地ツアー
- 3月15日 ○「北見営林支局調査」の調査員に対する公開質問状の回答を受理
- 3月16日 ○知事立候補予定者への公開質問状に対する回答受理
- 会報編集会議
- 3月22日 ○緊急代表者会議(斜里町にて)
- 3月21～24日 ○知床伐採の可能性が高いため、ウトロで待機(道内外の有志)
- 3月25日 ○通信86・8 送付
- 3月31日 ○水俣30年巡回展事務局会議
- 4月5日 ○代表者会議(札幌にて)
- 4月11～18日 ○「知床伐採近し」の報道で現地キャンプ設営(ウトロにて)
- 4月14日 ○(伐採の日)早朝ハンカチ巻付け。チプロ運動・抗議集会
- 道政クラブで「伐採の抗議声明」を発表
- 4月16日 ○「立木買い取り運動」について記者会見。同パンフレット納品
- 4月17日 ○伐採跡地調査(ヘリコプター集材の前)
- 4月24日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 4月25日 ○岩内原発建設地周辺にピラ入れ
- 反原発集会(岩内町にて)
- 4月26日 ○チェルノブイリ原発事故から1年抗議デモ(札幌にて)
- 4月28日 ○幌延フェスティバル実行委。
- 4月30日 ○水俣30年巡回展実行委
- 5月1日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 5月2～5日 ○知床伐採跡地調査、次年度予定地視察
- 5月3日 ○幌延フェスティバル
- 5月7～9日 ○水俣30年巡回展、砂田明一人芝居・映画会・原田正純講演会
- 5月10日 ○知床エイドⅢ出席
- 5月11日 ○幌延フェスティバル事務局会議
- 5月12日 ○石けん運動実行委
- 5月16日 ○入会者・立木買い取り運動パンフレット追加作成

編集後記

○北の国の春は爆発的。チョウのようなキタコブンは散ったけれど、サクラ・ウム・レングヨウ・モクレン・ボケ・エゾムラサキツツジ・ジャクナゲ・エゾノコリンゴと先を競うように咲き誇っています。六カ月の白い世界から春・夏・秋を一気にかけぬける。寒ければ寒いほど春がうれしいものです。

○知床のミズナラたちは春を待たずに終わりました。もうドングリを付けることも、動物たちの吐息を聞くこともないのです。あの瞬間を思い出すたびに涙が出ます。部屋には今も彼らの一部だった木片を置き、涙を怒りのエネルギーに転化しています。

○北の自然号外・31号と会報発行の遅れを取りもどしています。次号は六月二十五日発行予定です。四名の編集スタッフで作っていますが皆さんのご意見・ご感想を参考にしていきたいと思っておりますのでどしどしお寄せください。

(田中明子)

一九八七年五月二五日
編集発行 北海道自然保護連合

代表 瀬川 潔

事務所 札幌市東区北二三条東一丁目

堀江ビル2F

電話(011)七四二一三一六一代

振替口座 小樽一四〇七一

印刷 北海道機関紙印刷所

みなさんよろしく、私たちが自然保護センターにおります。



瀬川 潔



田中 明子



井山 浩一

大正九年十一月二十一日生れ、六十六歳、夕張の生れ、現在家内と二人暮らし、七歳で旧樺太移住、昭和十三年王子製紙KK山林部に入社、十五年から二十一年中国大陸、帰国後北海道庁林政部に奉職し林政改革で札幌営林局出向、四十五年ダッサラ退職食料品店自営。六十二年廃業して現在に至る。田中事務局長と十年来の知人(家族ぐるみ)であることと前職の関係から、この運動に参加することとなりました。

王子時代は伐採専門・営林局時代は管理部門、と両面を見たことが大変運動に役立っております。子供の時からスポーツに熱中、陸上・スキー・剣道・相撲と勉強はそっちのけ、今も剣道は続けております。

体力増進に努めて、残存年数を少しでも世の為になるならと心掛けております。代表などの器ではないことは方々承知ですが、皆さんの力を借して頂きながら頑張りたいと思っております。自然の偉大さを心にきざみこんで。

一九五六年二月五日生まれ、三十一歳、もっか独身にて一児の母。娘は「緑」。二歳半。

出身は十勝の本別、続いて寿都・旭川・札幌。大学入学とともに自然保護運動(北大自然保護研究会)に入り、北海道自然保護連合に参加。早いもので十二年目に入っている。学生時代はなかなか先輩に「なぜ自然保護なのか」をしこまれ毎日毎日学習会・調査・酒の連続。五月からは山登りとアツという間に時が流れてしまいました。中学・高校時代から「権力」に怒りを持ち続けていたが、石狩湾工業開発計画(苦東と同時期)という大規模開発により自然が壊された後、人々の心がすさみ、地域社会が解体される現実を見た時(石狩地区の追跡調査の結果)、自然保護を生業の仕事にしようと思っただ。とはいえ活動は「明るくダイナミック」をモットーとしている。時間を潰すのは山登り・スキー・バーダーイビング・温泉を楽しむ、仲間とうまい酒を飲むのが最高。

昭和四十年三月三十日生まれ、二十二歳、生まれも育ちもタマタマの埼玉県人。

山登り・スキー・オートバイ・木を見るのが趣味の、現在札幌在住。幼少の頃より山好きの父につれられ自然の中を歩きまわった。中学校・高校と山岳部に所属し、とにかく山登りに明け暮れた毎日だった。明治大学の農学部入学と同時に山岳部にも入部。しかし、その古めかしい伝統主義の体質になじめず、一年で退部した。その頃より興味を持っていた環境問題や自然保護について学びたく、緑地学という研究室に入室。

大学四年の卒業研究に「知床に集まれば」を新聞で見て、とにかく現地を見ようと、ベースキャンプに参加、その時、知床の原始的な森に強いショックを受けた。日本にこんなすばらしい森があるとは、それがきっかけで、現在、自然保護連合のいちおう専従をしている。

募集

▽写真
北海道の風景・植物・動物の写真。会報の表紙に使います。お名前その他、短かく写真解説を付けてください。

▽イラスト・カット
会報や冊誌・パンフレットに使います。大きさはご自由に。お名前と簡単なプロフィールを添えてください。

▽声の欄に原稿を

地域で問題になっていること(環境破壊とか)、自然や活動・社会に対するご意見・ご感想などをお寄せください。原稿用紙(四百字)一枚程度です。

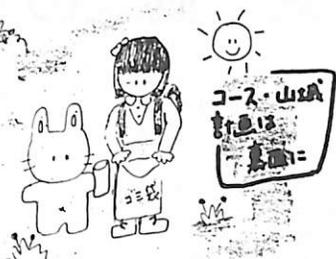
尚、北の自然号外(五月二十二日発行)のカットは次の方々でした。

大島美恵子さん・札幌市東区の主婦で英語と動物が大好き。知床の伐採問題で非常に憤りを感じ入会されました。動物のカットが大島さんの作品です。

中川昌昭さん・静岡市で森づくりの会という照葉樹・雑木を中心に、種の採取・播種・苗づくりを通して緑の保護・育成増殖に努めていらっしゃいます。

みなさんの声と作品をお待ちしています。

第8回 近郊の山一斉 清掃登山



—近郊の山と親しみ自然を守り—

6月7日(日)

小雨決行・雨天中止

- ☆もろもの / 弁当・水筒・おやつ・雨具
〈ゴミ袋は主催者が用意します。〉
- ☆服装 / 登山のできる服装
- ☆参加費 / 無料

〈事故の場合、応急処置はしますが、その後の責任は負いません。〉

主催



●北海道道央地区勤労者山岳連盟● 住所:札幌市北区北10条西1丁目 ☎747-7268
 北稜クラブ・HCみどりの風・おこばちハイキングクラブ・
 小樽勤労者山岳会・百松山岳会・ファミリー山岳会・
 札幌山びこ山友会・札幌登攀倶楽部・札幌ピオレ山の会・
 ユーパロ山歩会・札幌中央勤労者山岳会・北海道自然保護連合

山域・コース	札幌岳(冷水沢コース)	手稲山(平和の滝コース)	藻岩山(旭山公園コース)	無意根山(薄別コース)	神威岳	空沼岳	余市岳(常盤コース)
担当山岳会	札幌北稜クラブ	札幌登攀倶楽部	H Cみどりの風	札幌中央勤労者山岳会	百松山岳会	山びこ山友会	札幌ピオレ山の会
集合場所	登山口 8:45	平和の滝駐車場 8:30	地下鉄円山公園駅 9:00	薄別登山口 9:30	真駒内駅 定鉄操車場(駅すぐ左)	空沼岳登山口	小樽駅または登山口
利用交通機関	じゃぶ鉄バス 豊平駅行(真駒内駅発)	市営バス地下鉄琴似駅 発 西野平和橋終点より 15分	市営バス	札幌駅発 8:00 定鉄洞爺湖行 定山溪上7区下車	真駒内駅発 定鉄バス定山溪行 百松橋下車	中央バスターミナル発 6:50 真駒内駅 7:17	会で小樽駅に車を用意 します(10名程度) (必ず事前に電話下さい)
コース	登山口 8:45 山頂 12:00 " 13:00 登山口 16:00	平和の滝 8:30 手稲山山頂 12:30 " 13:30 平和の滝 15:00	登山口(旭山公園) 9:30 山頂 11:00 " 12:00 登山口(市民スキー場) 14:00	登山口 9:30 無意根尾小屋 13:00 " 14:00 登山口 16:00 バス 16:40 (このコースは山頂へ は行きません)	真駒内駅 8:00 百松橋 8:40 山頂上 12:30 " 13:30 百松橋 16:30	登山口発 8:00 万計沼 10:00 山頂 11:15 " 11:45 万計沼 12:15 登山口 15:30	小樽駅 8:00 登山口 9:00 山頂 12:00 " 13:00 登山口 15:00 小樽駅 16:00
連絡先	会事務所 711-6304	三好宅 261-1630	太田宅 852-3830	会事務所 726-0058 (夜18:00-21:00)	米山宅 621-6462 夜6:00以降	会事務所 711-6304 (水曜18:30-20:50)	会事務所 716-9796 (夜間) 岩間宅 583-1725(夜間)

山域・コース	塩谷丸山(天狗山コース)	赤岩自然遊歩道	藻岩山(慈恵会病院コース)	無意根山(元山コース)	藻岩山(小林峠コース)	夕張岳	
担当山岳会	おこばちハイキングクラブ	小樽勤労者山岳会	H Cみどりの会	札幌中央勤労者山岳会	ファミリー山岳会	ユーパロ山歩会	
集合場所	天狗山ニュー三幸前 8:00	小樽駅前バス停 幸小学校行 8:00	地下鉄円山公園駅 9:00	無意根山荘前 7:00	地下鉄真駒内駅 北ノ沢操車場	登山口(山小屋) 前日 17:00	
利用交通機関	中央バス最上町行 終点より10分		市営バス	なし(マイカーのみ)	真駒内駅発 市営バス南97 北ノ沢操	なし(マイカーのみ)	
コース	集合 8:00 おこばち山 10:00 丸山着 12:00 丸山発 13:00 塩谷駅解散 15:00	集合 8:00 オタモイ自然遊歩道入 口 8:45 赤岩峠 11:00 解散 13:00	登山口(慈恵会病院) 9:30 山頂 11:00 " 12:00 登山口(市民スキー場) 14:00	元山登山口 7:00 山頂 12:00 " 13:00 登山口 16:00	真駒内駅 8:57 小林峠 9:40 山頂 12:30 解散	登山口 5:00 山頂 9:00 山頂 10:00 登山口 13:00	
連絡先	会事務所(日、木、夜のみ) 0134-32-7983 辻本宅 0134-25-6292	会事務所(月のみ19:00- 21:00) 0134-32-7983 清水宅 23-1275	太田宅 852-3830	会事務所 726-0058 (夜18:00-21:00)	倉谷宅 663-3914(夜間) 渡辺宅 854-0336(夜間)	秋葉宅 01235-8-2957	